

#### 4. 症例報告—骨に特徴的な画像所見を呈したサルコイドーシスの一例

加藤 克哉 織内 昇 井上登美夫  
 遠藤 啓吾 (群馬大・核)  
 大竹 英則 (同・放)

ぶどう膜炎で発症したサルコイドーシスの経過中に、手背の腫脹・疼痛を契機として骨サルコイドーシスと診断された一例を報告する。

単純X線に左第2中手骨のほか右尺骨遠位端に境界不明瞭な osteolytic change が認められた。

骨シンチグラフィではそれらに加えて左脛骨や足趾にも異常集積がみられ、骨病変の部位・広がりの診断に有用であった。

<sup>18</sup>F-FDG PETは、肺門リンパ節腫大や皮下腫瘍に加えて、骨シンチで異常の認められた骨病変を明瞭に描出し、Gaシンチグラフィと同様、本診断に有用であった。FDG PETは悪性腫瘍のみならず、サルコイドーシスの診断に対する有用性が示唆された。

#### 5. <sup>67</sup>Ga scintigraphy 上悪性リンパ腫との鑑別が困難であったサルコイドーシスの一例

古橋 哲 莺辻 正人 此枝 紘一  
 (川口市立医療セ・放)  
 大島 統男 (帝京大・放)  
 森 豊 内山 真幸 (慈恵医大・放)  
 福光 延吉 (慈恵医大柏病院・放)

sarcoidosisは様々な臓器をおかす病因不明の肉芽腫性疾患である。今回われわれは、<sup>67</sup>Ga scintigraphyにて全身のリンパ節に強い異常集積を認めた一例を経験した。若干の文献的考察を加えて報告する。

症例は28歳の男性、頸部腫瘍を主訴に来院した。全身に腫大したリンパ節を多数触知、悪性リンパ腫の疑いにて入院となった。<sup>67</sup>Ga scintigraphyが施行され、両側頸部、腋窩、鼠径および肺門、大動脈周囲などほぼ全身のリンパ節への強い集積が認められた。集積部位には著明なリンパ節腫大がCTにて確認され、生検によりsarcoidosisと診断された。ステロイド投与により腫大は消失し、現在まで経過良好である。

sarcoidosisでは腫大した肺門リンパ節への<sup>67</sup>Gaの集積が知られているが、肺外のリンパ節への集積は

比較的頻度が低い。本例のようにほぼ全身のリンパ節が描出されたのは稀と考えられた。

#### 6. 乳腺悪性リンパ腫の2例

長谷川 弘 尾崎 裕 京極 伸介  
 新藤 昇 住 幸治 片山 仁  
 (順天堂大浦安病院・放)

今回、診断、および治療効果判定にガリウムシンチグラフィが有用であった乳腺悪性リンパ腫の2症例を経験したので報告する。

1例目は74歳女性、1998年1月右乳房に腫瘍を触知し、当院外科外来受診。右乳房に限局した異常集積像が認められた。原発性の乳腺悪性リンパ腫の診断の元に右乳房切除、および腋窩リンパ節廓清が行われた。病理診断はB cell median size diffuse typeの乳腺原発の悪性リンパ腫であった。

2例目は48歳女性、1997年5月左乳房に腫瘍を触れ当院外科外来受診。左乳腺部分切除術、およびCHOP療法5クール施行されており、治療効果判定のため、ガリウムシンチグラフィが4回施行された。術後の組織標本により median size diffuse type の悪性リンパ腫と確定診断された。また化学療法前のガリウムシンチグラフィで骨盤部、および上腹部に異常集積を認め、全身検索の結果、骨盤内、腹部の病変が発見された。乳腺原発の病変と思われたが、ガリウムシンチグラフィにより他の部位の病変の存在が判明し、その後に行われた治療の効果判定に際しても有用であった。

#### 7. 悪性リンパ腫再発時 re-staging における<sup>67</sup>Ga scintigraphy の成績

久山 順平 内田 佳孝 太田 正志  
 (千葉大・放)

悪性リンパ腫のステージングにおけるGaシンチの有用性はすでに広く認められているところだが、治療法の進歩にともない寛解の導入にもちこめる患者の比率が高まり、それとともに再発患者の診療的重要性が増している。千葉大学附属病院においてGaスキャンを、初発時・再発時のステージングにおいて使用した42症例を中心に、特に再発時のステージングでの有用性、および初発時の検査結果との関連を検討した。悪性リンパ腫の病変検出能は、再発時に